

大学生訪韓団（第1団）（派遣プログラム）の記録 （対象国：韓国，テーマ：日本の魅力発信及び日韓相互理解）

1. プログラム概要

日本全国から選抜された大学生等40名が、3月5日～3月14日の9泊10日の日程で韓国を訪問し、学校訪問、韓国文化体験、歴史的建造物視察等を通して韓国への理解を深めると共に、各訪問先では人的交流を通じて日本の魅力の発信をする等、日韓の相互理解と信頼関係の増進に寄与することを目的として活動しました。

一行はソウル市内及び近郊、江原道春川市内、釜山市内において、日韓関係及び文化交流についての講義を受けたほか、大学訪問、ホームステイ、韓国文化体験などを通じ、韓国の文化・社会に対する理解を深めるとともに、日本の魅力（文化・国民性等）について対外発信を行いました。

また、帰国前の成果報告の場では、訪韓経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）についてグループ毎に発表しました。

【訪問地】

韓国ソウル特別市、京畿道（城南市、烏山市）、江原道（春川市、楊口郡、寧越郡）、慶尚北道慶州市、釜山広域市

2. 日程

3月5日（火）

入国（金浦国際空港）、【視察】国立民俗博物館

3月6日（水）

【表敬】国立国際教育院、【学校訪問・交流・講義】韓信大学、「光復後の韓日関係史」

3月7日（木）

【表敬・講義】在韓国日本国大使館 公報文化院、「最近の日韓関係について」、

【視察】景福宮、韓服試着、【文化体験】NANTA 公演鑑賞

3月8日（金）

【表敬・講義】楊口郡庁、「楊口郡の姉妹都市交流、南北交流について」

【視察】DMZ（非武装地帯）エリア（第4トンネル、乙支展望台）

【視察・体験】楊口白磁博物館、白磁絵付け体験

3月9日（土）

【文化体験】マンドゥ（韓国風餃子）作り、【講義】「日韓両国の言語と礼節の理解」

【交流】ホームステイ対面式

3月10日(日)
終日ホームステイ

3月11日(月)
【学校訪問・交流】江原大学
【視察】韓国ガス安全公社エネルギー安全実証研究センター

3月12日(火)
【視察】現代自動車蔚山工場，世界遺産「慶州」(仏国寺，石窟庵，大陵苑，瞻星台)

3月13日(水)
【大学訪問・交流・講義】釜慶大学，「国民から市民へ」，【視察】釜山市内(在韓国連
記念公園，南浦洞，国際市場)，成果報告会

3月14日(木)
出国(金海国際空港)

3. プログラム記録写真

(訪問地：韓国ソウル特別市，京畿道(城南市，烏山市)，江原道(春川市，楊口郡，
寧越郡)，慶尚北道慶州市，釜山広域市)

	
3月6日【学校訪問・交流】韓信大学学生 と意見交換会，日本の魅力紹介 (京畿道烏山市)	3月7日【表敬・講義】在大韓民国日本国 大使館 公報文化院(ソウル特別市)
	
3月7日【視察・文化体験】景福宮視察， 韓服試着(ソウル特別市)	3月8日【表敬・講義】楊口郡庁 (江原道楊口郡)



3月9日【文化体験】マンドゥ（韓国風餃子）作り（江原道春川市）



3月11日【学校訪問・交流】江原大学学生と意見交換会，日本の魅力紹介（江原道春川市）



3月11日【視察・講義】韓国ガス安全公社 エネルギー安全実証研究センター，「水素自動車原理と実験過程及び現況について」（江原道寧越郡）



3月12日【視察】仏国寺（慶尚北道慶州市）



3月13日【講義】釜慶大学，「国民から市民へ」（釜山広域市）



3月13日【大学訪問・交流】釜慶大学学生と意見交換会，日本の魅力紹介（釜山広域市）

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 日本 大学生

・訪韓前は、日本に対してマイナスイメージを抱いている韓国人が多いのかと思っていた。しかし、大学生とのディスカッション等を通じて、歴史問題への意見と日本人全体に対する好感では別の感情を抱いている人が多く、日本人に対しては好意的な印象を持っていることが分かり、韓国人に対する見方が変わった。

・訪韓経験がない私の韓国のイメージは反日、K-pop という 2 大イメージで占められていた。しかし、普段メディアでは取り上げられない一般の韓国の方々との交流、ホームステイや韓国人学生とのディスカッションを通して純粋に日本人や日本文化に興味をもって学ぼうとしている人たちの存在を知ることができた。また、食堂のお母さんや店員さんなど気さくに日本語で会話してくださる方も多く、今回の訪韓で、メディアで報道されているようないわゆる「反日」感情というものに触れることはなかった。一方で PM2.5 による大気汚染に始まり、韓国の厳しすぎる就職状況など隣国でもこれほどまでに違うのかと驚く面も多々あった。また、第 4 トンネル等の視察により、北朝鮮の脅威と韓国が未だ休戦状態であることを実感することができた。

・本当に自分の財産となりうるプログラムだったと思う。特に政治的な側面で関係が最悪と言われているタイミングで、直接韓国を見ることができたのは本当に良かったと思う。相手の顔が見えてくると、相手への考え方や見方が変わり、自分の行動にも変化が出てくると感じた。今は政治的には厳しい状態だが、このプログラムのように、お互いの顔を見ることが出来る活動を今後も継続して開催して行って欲しい。まさに日韓関係の命綱とも言えるのではないか。

5. 受入れ側の感想

◆ 訪問大学総長

・今回の本学訪問を心より歓迎するとともに、感謝したい。1+1 の答えは、単純に 2 ではなく、もっと大きなものとなると信じている。今回の日韓学生同士の交流を通し、未来の日本と韓国を背負っていく皆さんがもっと大きな 1 つとなることを祈る。

◆ 訪問自治体関係者

・皆さんの訪問を大いに歓迎する。日本をはじめとする姉妹都市交流の政策や取組みを紹介するとともに、朝鮮戦争の傷跡が残る DMZ（非武装地帯）エリアでの視察、特産の陶磁器絵付け体験を通し、平和都市となるために最善を尽くす当地の取組みを理解していただきたい。帰国後はぜひ当地の訪問について広く知らせていただければ幸いである。

◆ 受入機関担当教員（訪韓団運営事務局）

・日本と韓国と国は違っても、思うことは一緒であると改めて思った。今回出会った方々との縁をぜひ大事に持続していただきたい。本プログラムを契機として、両国の交流がより促進されることを願う。

◆ 訪問大学意見交換会参加学生

・日本の学生の皆さんと会えてとても楽しかった。私は日本学科で勉強しているので、日本についてたくさん知っていると考えていた。しかし、日本各地から来た学生の皆さんと会って、地域によって異なる文化や食べ物などを紹介してもらい、日本について知らなかった部分を知ることができる良い機会となった。日本の観光地や日韓交流についてなど、色々な話をしていたら時間が足りないくらい楽しかった。

・国や言語が違って、やはり同じ人間だということを感じることができました。日韓交流がますます活性化し、互いに同じ方向に向かって進むコミュニティができたと思う。

6. 参加者の対外発信

<p>そして今日は江原大学を訪問して、大学生と交流しました。韓国の方は、日本観光に興味を持っており、また、趣味を通じた交流などを行って人との交流も図りたいとのことでした。今までの交流を通して、やはり日韓関係を良くするポイントは、顔が見える交流、会話する交流だと思いました。たとえメディアで相手の国のことが報道されても、友人の顔が浮かび、世間に流されずに自分の目で見たことを信じられるようになるからです。一緒に食事をするだけでも、十分に距離は縮まります。私はやはり実体験から相手を、文化を、国を理解することに限ると思います。</p> 	<p>・江原道 楊口郡庁表敬訪問 →首都ソウルを離れ、よりディープな地方地域へと舞台を移し最初に訪れたのは楊口郡という地域。この地域は、韓国の中で幸福度1位ということや、「訪れると10年若くなる！10年成長する！」というような明るい側面を持つ一方で、南北で町が分断されているというような暗い側面も持つような場所であることを、郡庁職員の方々の地域紹介によって学ぶ。また、南北5kmをつなぐ道路を建設中であるというような話を聞き、今自分が訪れている所は南北の境界線付近の地域なのだという実感を持つとともに、ニュース上で見る他人事の世界でしかなかったものが身近なものに変わり、この「南北関係」というテーマは日本帰国後に詳しく学んでみなければと思わされた。</p> 
<p>韓国の大学生との交流に関する発信</p> <p>今日は江原大学を訪問し、大学生と交流しました。韓国の方は、日本への観光に興味を持っていて、趣味を通じた交流などを行い人との交流も図りたいとのことでした。今までの交流を通して、やはり日韓関係を良くするポイントは、顔が見える交流、会話する交流だと思いました。たとえメディアで相手の国のことが報道されても、友人の顔が浮かび、世間に流されずに自分の目で見たことを信じられるようになるからです。一緒に食事をするだけでも、十分に距離は縮まります。私はやはり実体験から相手を、文化を、国を理解することに限ると思います。</p>	<p>江原道楊口郡庁表敬訪問についての発信</p> <p>首都ソウルを離れ、よりディープな地方地域へと舞台を移し最初に訪れたのは楊口郡という地域。この地域が韓国の中で幸福度1位ということや、「訪れると10年若くなる！成長する！」というような明るい側面を持つ一方で、町が南北で分断されているというような暗い側面も持つような場所であることを、郡庁職員の方々の地域紹介によって学ぶ。また、南北5kmをつなぐ道路を建設中であるというような話を聞き、今自分が訪れている所は南北の境界線付近なのだという実感を持つとともに、ニュース上で見る他人事の世界でしかなかったものが身近なものに変わり、この「南北関係」というテーマは日本帰国後に詳しく学んでみなければと思わされた。</p>

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表



帰国前夜、一行は成果報告会を行った。成果報告会の中では、訪問大学での韓国の学生との意見交換や日本の魅力紹介、ホームステイ、各種視察を通じて得た成果の共有及び、帰国後のアクション・プランについて発表した。

主な内容を紹介すると次の通りである。

・実際に訪韓し、韓国の学生やホームステイ家族の皆さんと交流する中で、韓国人に対するイメージが変わった。もっと交流し、さらに理解を深めていきたい。今回出会った方々と引き続き連絡を取り合うようにし、その方々が日本を訪れる際は、ぜひ日本を案内したいと思う。

・韓国とのボランティア交流に参加するなど、今後も日韓交流に関わりたい。自分自身も、もっと日本について理解し、発信していけるようになりたい。

・今回の経験を、大学のゼミや国際交流サークル、就職先の勉強会等をはじめとするさまざまな場で積極的に発信していきたい。SNSの活用や友人、周囲の人々との対話を通し、同世代だけではなく上の世代にも働きかけたい。

・今回の経験を地域の新聞に投稿し、多くの方に共有したい。

・今回の経験に関する動画を作成し、広く知らせたい。

(了)